

白根火山域の土壌から分離されたブラシカビ属菌 1 種

栗原祐子・徳増征二

筑波大学菅平高原実験センター

キクセラ目（接合菌門・接合菌綱・真菌門）は 1 科 9 属 26 種からなる菌群で、主に土壌や糞から分離される腐生菌である。このうち、ブラシカビ属（*Coemansia*）は本目の代表的な属であり、最も種数が多い。

今回、白根火山域の菌類相調査の一環として同山域に生息するキクセラ目菌を調査したので、その結果をここに報告する。

材料と方法

白根火山域の様々な地点から、土壌試料（試料数：9）を 1999 年 7 月に、糞試料（試料数：3）を 2000 年 9 月・10 月に採取した（表 1, 2）。土壌試料は 10%ニンジン寒天培地を用いた土壌平板法（Warcup 1950）で、糞試料は温室分離法（宇田川 1978）で処理した。これらを室温で 1 ヶ月間培養し、そこから出現したキクセラ目菌を分離・同定した。

表1 供試した土壌試料

採取地	標高(m)	植生
コマクサ火口原	2,110	ハイマツ群落
コマクサ火口原	2,110	火山荒原
鏡池火口内 南西斜面	2,070	ダケカンバ林

表2 供試した糞試料

糞の種類	採集地	標高(m)	植生
節足動物	湯釜 南斜面	2,010	火山荒原
節足動物	湯釜 南斜面	2,010	火山荒原
ノウサギ	三日月 火口北	2,000	チシマザサ 群落

鏡池北西	2,060	ハイマツ群落	*地点名は下谷（1985）に従った。
逢ノ峯東斜面	2,035	シラビソ疎林	
湯釜南斜面	2,040	火山荒原	
ロープウェイ 山麓駅西	1,580	チシマザサ群落	
万代坑沢源頭	1,530	針広混交林	
万代坑沢源頭 尾根上	1,554	尾根上疎林	次頁の説明： 図1 ブラシカビ属の 一種（ <i>Coemansia aciculifera</i> ）. 1. 胞 子囊柄の概観. Without scale. 2. 小 孢子囊離脱後のスポロクラディア. Bar = 10 μ m. 3. 小孢子囊中の孢子 囊孢子. Bar = 5 μ m.

結果及び考察

ブラシカビ属の一種、*C. aciculifera* Linder 1943（図1）のみが山麓駅西の土壤から出現した。本種は日本で普通に見られるキクセラ目菌であり、北海道から鹿児島まで、また海岸から亜高山まで、日本の広範囲かつ様々な森林の土壤から分離されている（三浦 1978; 栗原・徳増 未発表）。

今回は少数の試料のみに基づき調査を行なったが、白根火山域のキクセラ目菌相の全貌を明らかにするためには、今後調査地点・試料数を増やし、さらに調査を継続する必要があると考える。

引用文献

- 三浦宏一郎, 1978. 菌類図鑑（上）. pp. 281-282. 講談社, 東京.
 下谷昌幸, 1985. 白根火山. 上毛新聞社出版局, 前橋.
 宇田川俊一, 1978. 菌類図鑑（下）. pp. 1211-1213. 講談社, 東京.

Warcup, J. H., 1950. The soil-plate method for isolation of fungi from soil.
Nature, **166**: 117.